

三田市立学校のあり方に関する基本方針
～小中学校の適正規模・適正配置について～

平成30年7月

三田市教育委員会

目 次

I	基本方針策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	基本方針策定の趣旨および背景	
2	三田市立小中学校の現状	
II	適正配置を考える上での基準および具体的な方策・・・・・・・・	4
1	望ましい学校規模	
2	望ましい学校規模を確保するための具体的な方策	
3	具体的な方策を実施する際に留意すべきこと	
4	特色ある教育について	
III	保護者・地域との協議について・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1	基本的な考え方	
2	協議のスケジュール	

資料編

1	「三田市人口ビジョン（H28.3）」～三田市の将来人口推計より抜粋～	9
2	市立小中学校の児童生徒数および学級数の推移・・・・・・・・	10
3	学校別児童生徒数・学級数の推移【小学校】、【中学校】・・・・・・・・	11
4	望ましい学校規模（学級数）による分類・・・・・・・・	12
5	三田市の学校がある場所と各学校の学級数、児童生徒数・・・・・・・・	13
6	中学校区別児童生徒数の今後の推移について（推計）・・・・・・・・	14
7	小規模校・大規模校におけるメリット・デメリット・・・・・・・・	22
8	市民アンケート調査結果・・・・・・・・	23
9	小中一貫教育について（兵庫県教育委員会パンフレットより）・・・・・・・・	27

I 基本方針策定にあたって

1 基本方針策定の趣旨および背景

全国的に少子化が進む中、本市においても、2010年に16,070人であった「年少（0～14歳）人口」が、2020年には14,239人、2030年には12,518人と長期的に減少すると予想されています。そのため、学校の小規模化がますます進むことが考えられます。

三田市においては、「子どもの夢と未来が輝くまち さんだ」の実現を目指して、平成29年度より第2期三田市教育振興基本計画「さんだっ子かがやき教育プラン（平成29年～33年度）」をスタートさせました。

グローバル化や情報通信技術の進展に伴い、社会情勢が急激に変化する中、子どもたちがこれからの社会をたくましく生き抜くために「自立、協働、創造」を3つの基本的な基軸として、生涯にわたって能動的に学び続けていく必要があります。

このことから、第2期三田市教育振興基本計画において、基本施策として新たに「変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進」を掲げ、生涯にわたって、自らが直面する様々な課題に対し、柔軟かつたくましく対応できる人物の育成をめざし取組を進めているところです。

また、次期学習指導要領では、子どもたちに身につけさせたい資質・能力として『何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）』、『知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）』、『どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性）』という3つの柱が示されています。

特に複雑で変化の激しい社会の中では、さまざまな情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置づけ、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力が必要となります。

各学校において、こうした資質・能力の育成に向け「主体的・対話的で深い学び」を視点に、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、生きる力を育むことを求めています。

このような取り組みを効果的にを行い、子ども同士が「学び合い、高まり合える」環境を保障するためには、ある程度の学校規模（学級数、児童生徒数）が必要であると考えます。

このような状況から、平成29年7月に学識経験者、自治会・PTA・市民委員・学校関係者で構成する「三田市立学校園のあり方審議会」を設置し、平成30年3月に答申をいただきました。

市教育委員会では、この答申を十分尊重した上で、三田市立小中学校の小規模化に伴う諸課題に対し、市民と教育委員会とが協働して取り組む指針として、今後の三田市立小中学校の適正規模、適正配置についての方向性を示した「三田市立学校のあり方に関する基本方針」を策定しました。

子どもたちが、集団的な活動を通して、自分に自信を持ち、多様性を尊重しながら、人とのつながりを大切にするとともに、互いに支え合い、たくましく生き抜く力を身に付けてほしいと願っています。

今後、この基本方針に基づき、三田の子どもたちの未来のために望ましい教育環境を実現するべく努めてまいります。

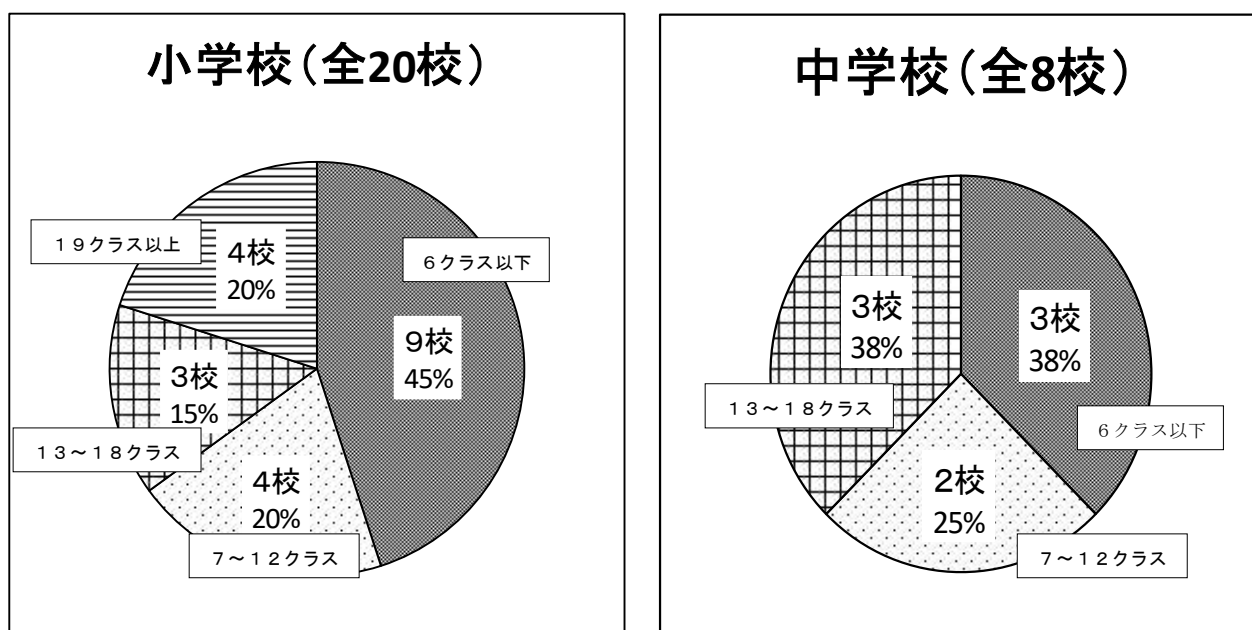
2 三田市立小中学校の現状

三田市においては、平成10年度の小中学校合計15,515人をピークに年々児童生徒数が減少し、この数年は約9,000人でほぼ横ばいで推移しています。

平成30年4月現在、小学校では、学級数（特別支援学級を除く）が6学級以下の学校が9校、7～18学級の学校が7校、19学級以上の学校が4校となっています。また、中学校では、学級数が6学級以下の学校が3校、7～18学級の学校が5校で、19学級以上の学校はありません。

※以下、児童生徒数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級を除いて記載しています。

市内小中学校規模別学校数(H30.4.11 現在)



中でも、農村部の学校においては、小規模化が著しく、特に中学校では、免許外指導の増加や部活動の減少等、その影響は深刻となっています。

一方、宅地開発の影響から児童生徒数が増加しており、将来教室等の不足が生じる可能性のある学校も一部にあり、地域による偏りが見られ、今後、この偏りがさらに大きくなると予想されます。

市内小中学校児童生徒数および学級数推移推計

番号	中学校区	学校名	平成30年度		平成36年度(推計)		児童生徒数増減		過去最大規模	
			学級数	人数	学級数	人数	人数	率	学級数	人数
1	長坂中学校区	長坂中	5	125	5	120	△ 5	△4%	14	543
		本庄小	6	62	4(3・4・5・6年複式)	36	△ 26	△42%	8	219
		広野小	6	185	8	198	13	7%	18	623
2	上野台中校区	上野台中	5	130	3	103	△ 27	△21%	11	367
		志手原小	5(2・3年複式)	60	6	48	△ 12	△20%	8	252
		小野小	5(3・4年複式)	58	5(3・4年複式)	50	△ 8	△14%	11	278
		高平小	6	99	6	84	△ 15	△15%	12	340
		母子小	複式 3	16	複式 3	5	△ 11	△69%	5	39
3	狭間中学校区	狭間中	11	380	12	408	28	7%	19	725
		武庫小	19	577	14	457	△ 120	△21%	20	714
		狭間小	9	230	7	196	△ 34	△15%	31	1,109
4	八景中学校区	八景中	14	505	16	582	77	15%	21	852
		三田小	21	676	23	717	41	6%	23	845
		三輪小	12	372	14	420	48	13%	24	959
		松が丘小	6	127	6	114	△ 13	△10%	18	628
5	けやき台中校区	けやき台中	15	556	17	634	78	14%	18	652
		けやき台小	26	859	19	574	△ 285	△33%	25	816
		すずかけ台小	14	435	14	391	△ 44	△10%	23	772
6	富士中学校区	富士中	8	270	9	275	5	2%	18	644
		富士小	13	413	10	244	△ 169	△41%	20	684
		弥生小	6	139	6	102	△ 37	△27%	24	794
7	藍中学校区	藍中	6	159	6	136	△ 23	△14%	22	817
		藍小	6	99	6	63	△ 36	△36%	16	510
		つつじが丘小	8	207	7	155	△ 52	△25%	36	1,308
8	ゆりのき台中校区	ゆりのき台中	15	579	22	844	265	46%	27	1,008
		ゆりのき台小	27	877	32	1041	164	19%	30	1,048
		あかしあ台小	18	520	17	506	△ 14	△3%	31	1,096
		学園小	7	186	6	141	△ 45	△24%	12	358
合計			302	8,901	303	8,644	△ 257	△3%		

小 計: 中学校+398名(+14.7%)、小学校△655名(△10.6%)

【備考】

- ・平成36年度の推計値については、現在各校に在籍する児童生徒が、転出入なく進級し、また、その校区に現在住んでいる未就学児がそのまま校区の学校に就学すると想定した時の児童生徒数を表示しています。
- ・児童生徒数には、特別支援学級児童生徒も含まれます。私立中学校への進学は考慮していません。
- ・平成30年度の児童生徒数は、小学校1年は入学式(4/10)、2～6年は始業式(4/9)、中学校1年は入学式(4/11) 2～3年は始業式(4/9)現在のデータです。
- ・過去最大規模は、昭和57年以降の最大値を示しています。

【参考】

平成30年4月11日現在、各中学校に住んでいる未就学児が全て校区の中学校に就学した時の平成42年(2030年)度の生徒数(推計)は、下記の通りです。

	長坂中	上野台中	狭間中	八景中	けやき台中	富士中	藍中	ゆりのき台中
学級数	4	3	8	18	12	6	3	22
人数	107	79	271	622	399	155	89	804

II 適正配置を考える上での基準および具体的な方策

1 望ましい学校規模

望ましい学校規模（学級数）については、三田市の小・中学校の現状と将来的な児童生徒数の推移及び小規模校・大規模校のメリット・デメリット等を総合的に考慮した結果、以下の通りとします。併せて、そのように判断した主な理由は下記の通りです。

小学校： 12～18学級（各学年2～3学級）

中学校： 9～18学級（各学年3～6学級）

<小学校>

- ①すべての学年でクラス替えができる。
- ②各学年に複数の担任がいることで、性別・経験年数等バランスのとれた学年編成ができる。
- ③運動会・音楽会等の学校行事の活性化が図れる。
- ④ある程度の教員数を確保できることから、学校運営が余裕を持って行える。

<中学校>

- ①免許外指導の課題が一定程度解消される。
- ②部活動において、ある程度の部活数・部員数・顧問数が確保できる。
- ③体育大会・文化祭等の学校行事の活性化が図れる。
- ④ある程度の教員数を確保できることから、学校運営が余裕を持って行える。

2 望ましい学校規模を確保するための具体的な方策

(1) 小規模校への方策

- ・小規模校においては、望ましい学校規模を確保する方策として、隣接する学校との「学校再編（統合）」（以下、特に記載がない限り同様とします。）が最も有効であると考えます。小規模校を解消し、望ましい学校規模を確保するために、全市的な観点から学校再編を検討していきます。その際、一時的に望ましい学校規模を超える場合があったとしても、将来的に児童生徒数の減少が予想される場合には、学校再編の対象とします。
- ・答申の中でも特に課題が大きいとされた中学校の再編については、地域と協議の上、早急に対応していきます。
- ・また、小学校においても、望ましい学校規模を大きく下回り、将来的にも児童数の減少が予想される学校については、地域と協議の上、出来るだけ早い時期に対応することとします。
- ・学校再編により学校区が変更になる時には、小学校と中学校の校区の整合性を図り、同じ小学校に通う児童が別々の中学校に通うことがないように配慮します。

(2) 大規模校への方策

- ・児童生徒数が増加している大規模校が数校ありますが、いずれも概ね10年後にはピークを過ぎ、一定落ち着くことが想定されるため、学校の新設、校区の変更等の方策は行わないこととします。
- ・ただし、35人学級や少人数学習の導入等により、今後教室の不足が予想される学校には、必要に応じて校舎の増築を計画的に行っていきます。

3 具体的な方策を実施する際に留意すべきこと

学校再編を行うにあたっては、児童生徒数の将来推計も参考に、中長期的な観点で望ましい学校規模を確保することが条件となります。特に、児童生徒や地域に及ぼす影響も大きいことから、次の事項に留意しながら検討していきます。

(1) 児童生徒の通学負担（通学時間、通学手段等）に関すること

- ・児童生徒にとって日々の通学時間やその方法は大変重要なことです。現在、市内には徒歩で約1時間、自転車で約50分かけて通学している児童や生徒がいます。児童生徒にとって過重な負担にならないように、学校再編後の通学時間は「おおむね1時間を超えない」ように配慮します。特に、小学校においては、児童の発達段階を考慮して、出来るだけ通学時間の短縮を図ります。
- ・現在、本市では通学距離が「小学校で3km以上、中学校で4km以上」となる児童生徒に対し、通学費の補助を行っています。学校再編により、校区が広がることが想定されることから、通学手段を確保するために、路線バスの活用やスクールバスの導入を検討し、今後も通学支援を継続していきます。

(2) 学校と地域との関係に関すること

- ・学校は地域のコミュニティの核になっている場合が多く、学校再編によって学校と地域との関係性が変化する可能性があります。今後も、学校と地域とが協働して学校運営・地域づくりを行えるようなシステムを構築し、三田型コミュニティ・スクールを推進していきます。
- ・上記の目的を達成するために、学校区と行政区については、可能な限り整合性を図ることとします。

(3) 学校跡地の有効活用に関すること

- ・廃校後の学校跡地及び施設の有効活用については、市長部局と連携のもと、地域と十分協議した上で、市として総合的に検討していきます。

(4) 当面对応すること

- ・学校再編を検討するためには一定の期間が必要となります。その間、特に小規模校におけるデメリットを少しでも緩和するために、当面の対応として、指導方法やカリキュラムの工夫（ICTの活用等を含む）、他校との交流の実施、合同部活動への補助、複数免許を持つ教員の配置等、可能な限りの対策を行っていきます。

4 特色ある教育について

(1) 小規模特認校制度

- ・本市では、自然環境に恵まれ、特色ある教育を推進している母子小学校への就学を、一定の条件のもと認める「小規模特認校制度」を平成24年から実施しています。制度開始から6年が経過し、「一輪車運動や子ども母子神楽等の少人数の利点を生かし、地域とのつながりを大切にした特色ある教育活動を推進できた」等の成果が見られる一方、「制度制定時に想定していた他地域からの就学や児童数の増がほとんど見られない」などの課題も見られます。今後、母子小学校区の児童数がさらに減少することが予想される中、この制度についても見直す時期にきています。今回の学校再編について保護者・地域と協議する中で、より良い方向性を導き出していきます。

(2) 小中一貫教育および義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校（併設型）

<小中一貫教育>

- ・本市においては、小1プロブレム・中1ギャップ等の校種間の段差による課題を解消することを目的にして、平成21年度より「保幼・小・中学校11年間を見通した連携教育」を推進してきました。特に、小学校から中学校へのスムーズな移行のために、今まで本市で実施してきた「小中連携教育」をさらに深化させ、「めざす子ども像の共有」「学習の系統性を明確にした学習法の共有」「社会的自立に向けたキャリア教育の推進」等を柱にした「9年間の学びをつなぐ小中一貫教育」を引き続き全校において推進していきます。
- ・「小中一貫教育」をより効果的に展開する場合の学校の形態として、「義務教育学校」や「小中一貫型小学校・中学校（併設型）」があり、以下に、それぞれに対する考え方を示します。

<義務教育学校>

- ・平成27年6月、「学校教育法等の一部を改正する法律」により、小中一貫校が制度化され、平成28年度より小学校と中学校とを一体化した「義務教育学校」が新たに創設されました。義務教育学校については、「自由度の高いカリキュラムを設定できる」「いわゆる中1ギャップの解消につながる」等のメリットがある一方、「人間関係の固定化につながる」「他の小中学校との格差が生じる可能性がある」等のデメリットがあるといわれています。
- ・義務教育学校は、平成29年度現在全国に48校（兵庫県では神戸市に1校）設置されています。先行実施されている学校の状況では、学校運営等課題となる事項が少なからず報告されています。また、教育的効果等についても慎重に検討する必要があることから、本市において当面導入することは考えておりません。

<小中一貫型小学校・中学校（併設型）>

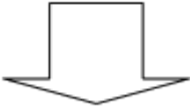
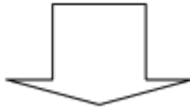
- ・義務教育学校が、1つの学校であるのに対し、「小中一貫型小学校・中学校（併設型）」は、小中一貫教育を担保するための組織運営上の措置を行うもので、1中学校と複数の小学校がそれぞれの組織のままで、小中一貫教育を推進しやすくするものです。2つの施設がごく近い位置にある場合は、「教員同士の情報交換や小学生と中学生の交流がしやすい」等のメリットがあります。本市では、「小中一貫型小学校・中学校（併設型）」の導入も視野に入れて、学校再編の検討を進めます。

Ⅲ 保護者・地域との協議について

1 基本的な考え方

- ・児童生徒にとってより良い教育環境を提供することを最重点の視点として、学校再編について地域とともに検討していきます。
- ・検討する際は、課題が大きく早急な対応を必要とする中学校の再編からまず協議します。緊急性が高く、早期に再編を希望する小学校がある場合には、その再編についても併せて検討します。
- ・学校は地域のコミュニティの核となっている場合が多いことから、まちづくりの視点や再編後の跡地の有効活用等については、市として総合的に検討していきます。

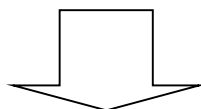
2 協議のスケジュール

時期	内 容
H30年8月～	<p><u>①基本方針について保護者・地域への説明会を実施します。</u></p> <p>第1回説明会</p> <ul style="list-style-type: none">・全中学校区（8カ所）で実施します。・市としての考え方や基本方針の内容等について、資料に基づき説明し、理解が得られるよう努めます。 <p style="text-align: center;"></p>
秋以降	<p>◎学校再編についての具体的な案を提示します。</p> <p>第2回説明会</p> <ul style="list-style-type: none">・対象となる中学校区で実施します。・学校再編についての具体的な案について詳しく説明します。・小学校から学校再編の希望が出てきた場合には、別途説明会を開催します。 <p style="text-align: center;"></p>

H31～32年
度

②対象中学校区に「地域協議会（仮称）」を設置します。

- ・地域の主要団体の代表（校長、PTA、自治会等）および教育委員会で構成します。
- ・「地域協議会（仮称）」の期間は原則2年を限度とし、その間に学校再編の是非を協議していただきます。
- ・学校再編について合意形成が得られた地域は、「学校再編についての意見書」を教育委員会に提出します。



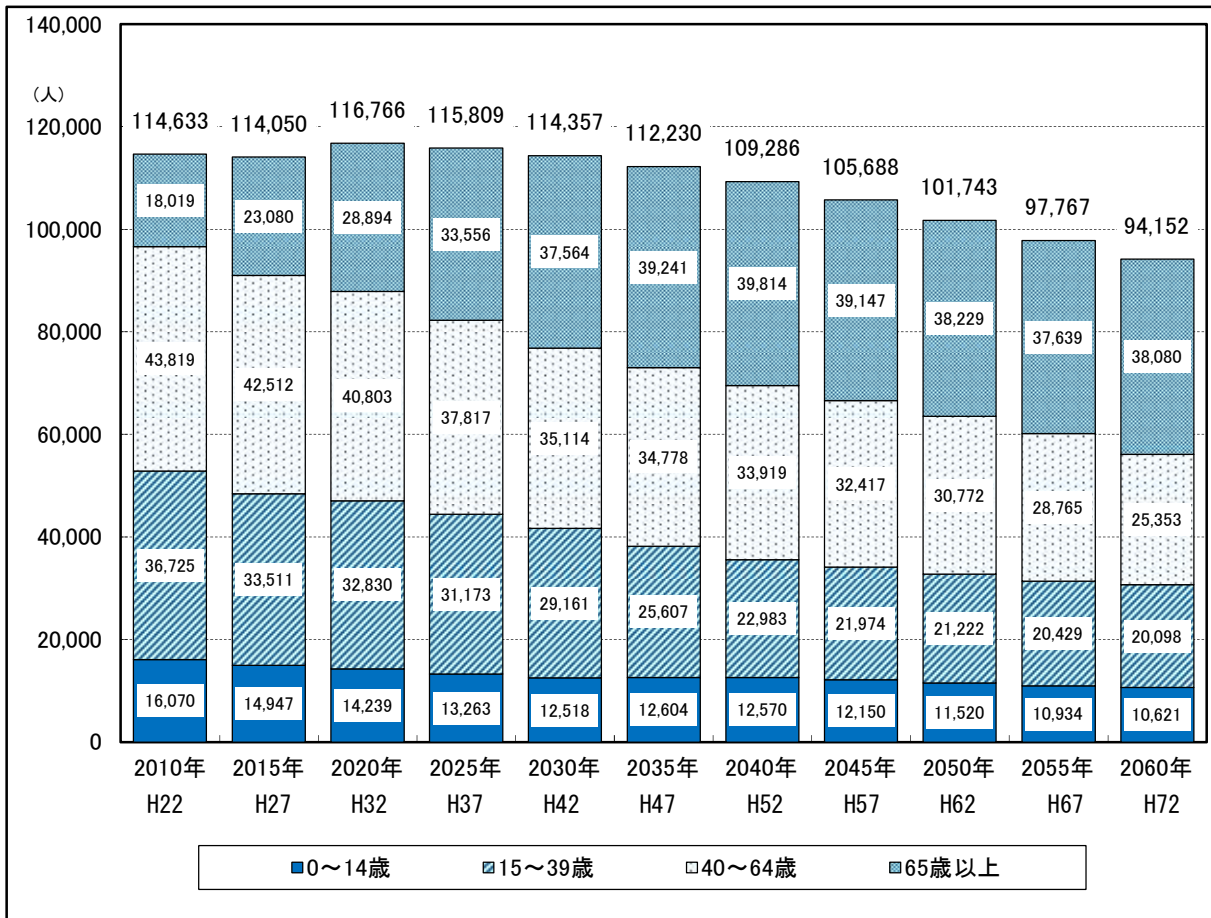
◎学校再編に向けて、「準備会（仮称）」を設置し、具体的な事項について協議していきます。

◎適切な時期に、小学校の学校再編についても協議していきます。

資料編

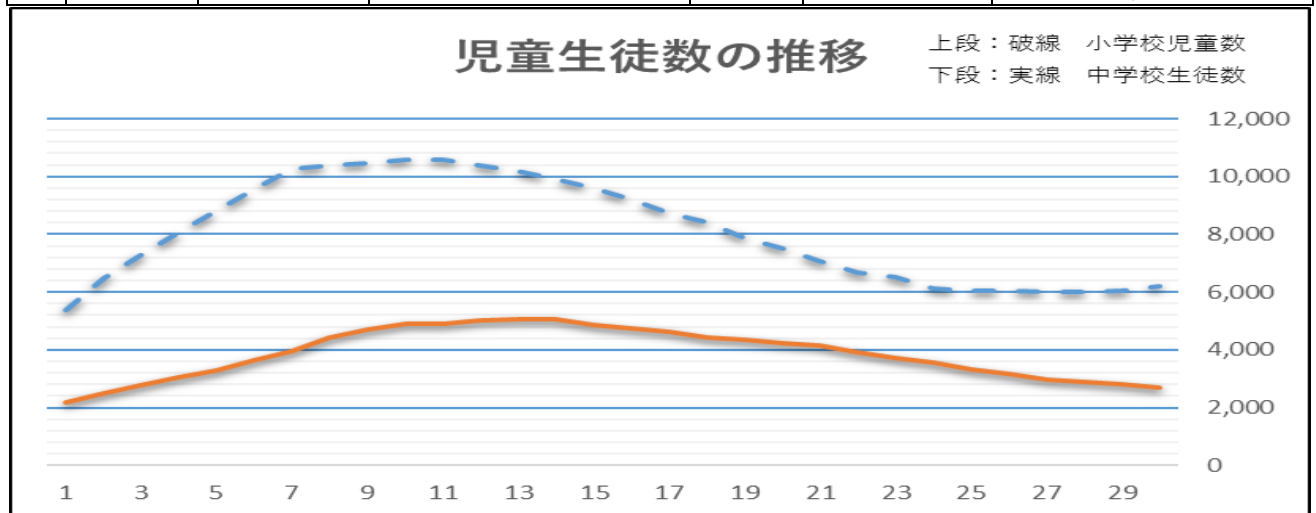
1 「三田市人口ビジョン(H28.3)」～三田市の将来人口推計より抜粋～

* 2010年～2015年を基準年度として、パターン2（出生率がゆるやかに上昇）で推計



2 市立小中学校の児童生徒数および学級数の推移

年度	小 学 校			中 学 校		
	校数	学級数	人 数	校数	学級数	人 数
元	13	169	5,368	5	59	2,188
2	15	200	6,473	5	67	2,502
3	17	229	7,276	7	80	2,761
4	19	257	8,065	8	89	3,066
5	19	274	8,812	8	95	3,277
6	19	296	9,554	8	103	3,627
7	20	314	10,263	8	111	3,973
8	20	318	10,390	8	123	4,439
9	20	321	10,473	8	128	4,689
10	20	322	10,596	8	131	4,919
11	20	322	10,585	8	132	4,910
12	20	317	10,374	8	138	5,006
13	20	311	10,183	8	140	5,079
14	20	302	9,896	8	139	5,045
15	20	296	9,614	8	132	4,879
16	20	289	9,208	8	131	4,743
17	20	278	8,741	8	128	4,618
18	20	269	8,410	8	122	4,448
19	20	259	7,851	8	120	4,336
20	20	255	7,488	8	116	4,226
21	20	241	7,091	8	114	4,137
22	20	223	6,696	8	108	3,914
23	20	233	6,517	8	104	3,716
24	20	223	6,143	8	99	3,553
25	20	219	6,055	8	94	3,325
26	20	222	6,042	8	90	3,168
27	20	221	6,022	8	85	2,970
28	20	220	6,023	8	85	2,874
29	20	222	6,049	8	82	2,803
30	20	223	6,197	8	79	2,704



3 学校別児童数・学級数の推移【小学校】

区 分		H 1 (1989)	H 5 (1993)	H 1 0 (1998)	H 1 5 (2003)	H 2 0 (2008)	H 2 5 (2013)	H 3 0 (2018)
三田小	人 数	6 4 6	4 8 2	5 6 2	6 9 8	6 6 3	6 0 3	6 7 6
	学級数	1 9	1 5	1 8	2 1	2 1	1 9	2 1
三輪小	人 数	5 3 0	4 8 5	4 2 9	5 5 2	5 6 3	4 1 8	3 7 2
	学級数	1 6	1 5	1 3	1 6	1 8	1 4	1 2
志手原小	人 数	2 1 7	2 0 9	1 8 4	1 7 0	1 4 4	9 2	6 0
	学級数	7	7	6	6	6	6	5
藍小	人 数	2 7 6	2 5 3	2 6 4	2 1 2	1 6 8	1 0 7	9 9
	学級数	1 0	9	1 0	7	6	6	6
本庄小	人 数	1 9 8	2 0 6	1 3 0	1 1 5	1 0 7	7 5	6 2
	学級数	7	7	6	6	6	6	6
広野小	人 数	5 9 5	4 9 4	5 0 2	3 8 5	2 8 3	2 1 6	1 8 5
	学級数	1 8	1 4	1 6	1 3	1 1	8	6
小野小	人 数	1 0 8	1 3 4	2 3 8	2 6 6	1 7 8	1 0 8	5 8
	学級数	6	6	9	1 1	7	6	5
高平小	人 数	3 3 3	3 0 5	3 0 5	2 3 7	1 7 5	1 3 7	9 9
	学級数	1 2	1 1	1 1	8	7	6	6
母子小	人 数	3 5	3 0	2 5	1 3	1 6	1 1	1 6
	学級数	4	4	3	3	3	3	3
武庫小	人 数	5 5 3	3 8 7	6 0 0	7 2 2	5 8 5	5 4 8	5 7 7
	学級数	1 7	1 2	1 9	2 0	1 8	1 7	1 9
松が丘小	人 数	5 8 6	5 8 7	4 7 7	3 9 4	2 4 1	1 4 7	1 2 7
	学級数	1 6	1 7	1 4	1 2	9	6	6
すずかけ 台小	人 数	6 0 7	5 2 3	7 2 2	7 1 8	6 1 3	4 7 9	4 3 5
	学級数	1 8	1 7	2 0	2 1	2 0	1 7	1 4
狭間小	人 数	6 8 4	1 1 1 3	9 2 7	7 0 6	4 1 3	2 6 9	2 3 0
	学級数	1 9	3 1	2 5	2 2	1 3	1 0	9
富士小	人 数		6 2 4	5 8 2	4 2 6	4 0 2	4 0 0	4 1 3
	学級数		1 8	1 8	1 4	1 2	1 2	1 3
あかしあ 台小	人 数		9 8 3	9 2 3	7 4 4	5 8 7	4 8 9	5 2 0
	学級数		2 8	2 6	2 1	1 9	1 7	1 8
弥生小	人 数		5 9 8	7 4 0	4 4 3	3 1 0	1 9 5	1 3 9
	学級数		1 8	2 2	1 3	1 2	6	6
つつじが 丘小	人 数		9 6 5	1 2 5 9	8 4 3	4 5 0	2 7 5	2 0 7
	学級数		2 7	3 3	2 4	1 5	1 2	8
けやき台 小	人 数		3 4 6	5 4 7	5 7 9	6 7 0	7 5 7	8 5 9
	学級数		1 2	1 7	1 7	2 1	2 4	2 6
学園小	人 数		8 8	2 8 7	3 6 0	2 3 9	1 5 9	1 8 6
	学級数		6	1 1	1 2	1 0	6	7
ゆりのき 台小	人 数			8 9 3	1 0 3 1	6 8 1	5 7 0	8 7 7
	学級数			2 5	2 9	2 1	1 8	2 7

学校別生徒数・学級数の推移【中学校】

区 分		H 1 (1989)	H 5 (1993)	H 1 0 (1998)	H 1 5 (2003)	H 2 0 (2008)	H 2 5 (2013)	H 3 0 (2017)
上野台中	人 数	3 0 3	3 6 2	3 3 8	3 6 7	3 1 3	1 9 4	1 3 0
	学級数	9	1 1	9	1 0	9	6	5
長坂中	人 数	4 9 0	3 4 5	3 1 3	2 7 6	2 2 2	1 7 7	1 2 5
	学級数	1 3	1 0	9	9	7	6	5
狭間中	人 数	4 7 6	5 2 0	6 7 7	7 2 5	5 9 6	4 3 4	3 8 0
	学級数	1 3	1 5	1 8	1 9	1 6	1 2	1 1
八景中	人 数	7 3 2	6 2 5	7 1 7	6 1 0	7 2 3	6 4 8	5 0 5
	学級数	1 8	1 7	1 9	1 7	1 9	1 8	1 4
けやき台 中	人 数	1 8 7	3 0 1	5 8 8	6 5 6	6 1 6	6 0 1	5 5 6
	学級数	6	9	1 6	1 8	1 7	1 7	1 5
富士中	人 数		3 7 0	6 3 5	5 5 3	3 7 5	3 0 1	2 7 0
	学級数		1 1	1 7	1 5	1 1	9	8
藍中	人 数		4 2 0	7 9 4	7 4 5	4 8 7	2 5 6	1 5 9
	学級数		1 2	2 1	1 9	1 3	7	6
ゆりのき 台中	人 数		3 3 4	8 5 7	9 4 7	8 9 4	7 1 4	5 7 9
	学級数		1 0	2 2	2 5	2 4	1 9	1 5

4 望ましい学校規模（学級数）による分類

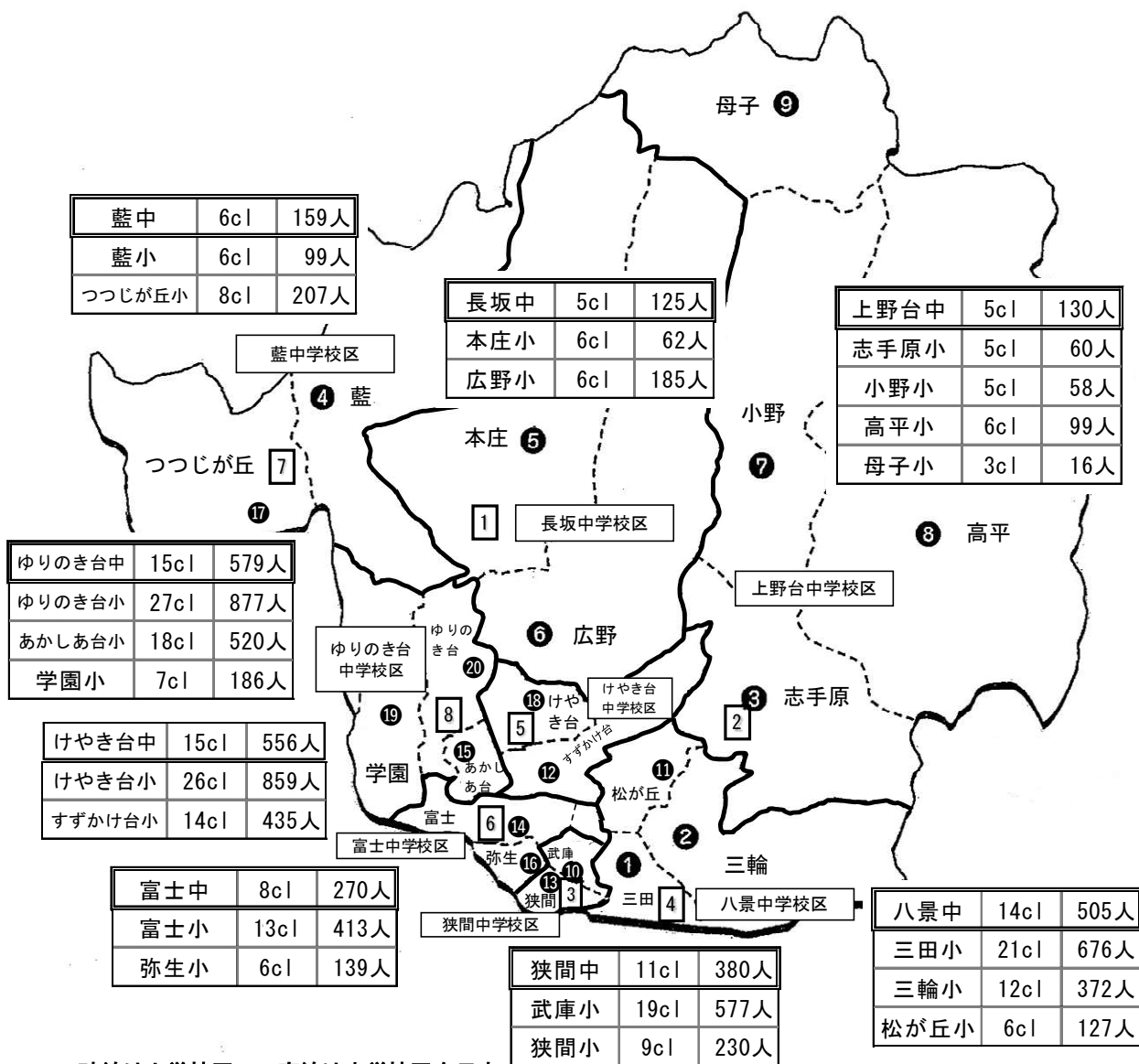
①小学校

	小規模校 (～11学級)	望ましい規模校 (12～18学級)	大規模校 (19学級～)
H 3 0	本庄、広野、志手原、高平、 小野、母子、狭間、松が丘、 弥生、藍、つつじが丘、学園 (12校)	三輪、すずかけ台、富士、あか しあ台 (4校)	武庫、三田、けやき台、ゆり のき台 (4校)
H 3 6 (推計)	本庄、広野、志手原、高平、 小野、母子、狭間、松が丘、 富士、弥生、藍、つつじが丘、 学園 (13校)	武庫、三輪、すずかけ台、あか しあ台 (4校)	三田、けやき台、ゆりのき台 (3校)

②中学校

	小規模校 (～8学級)	望ましい規模校 (9～18学級)	大規模校 (19学級～)
H 3 0	長坂、上野台、富士、藍 (4校)	狭間、八景、けやき台、ゆりの き台 (4校)	(なし)
H 3 6 (推計)	長坂、上野台、藍 (3校)	狭間、八景、けやき台、富士 (4校)	ゆりのき台 (1校)
H 4 2 (推計)	長坂、上野台、狭間、富士、 藍 (5校)	八景、けやき台 (2校)	ゆりのき台 (1校)

5 三田市の学校がある場所と各学校の学級数、児童生徒数



---破線は小学校区、一実線は中学校区を示す

【小学校】

- ①三田 ②三輪 ③志手原 ④藍 ⑤本庄 ⑥広野 ⑦小野 ⑧高平 ⑨母子 ⑩武庫 ⑪松が丘
⑫すずかけ台 ⑬狭間 ⑭富士 ⑮あかしあ台 ⑯弥生 ⑰つつじが丘 ⑱けやき台 ⑲学園 ⑳ゆりのき台

【中学校】

- ①長坂 ②上野台 ③狭間 ④八景 ⑤けやき台 ⑥富士 ⑦藍 ⑧ゆりのき台

※表内の数値は、平成30年4月現在の児童生徒数及び学級数

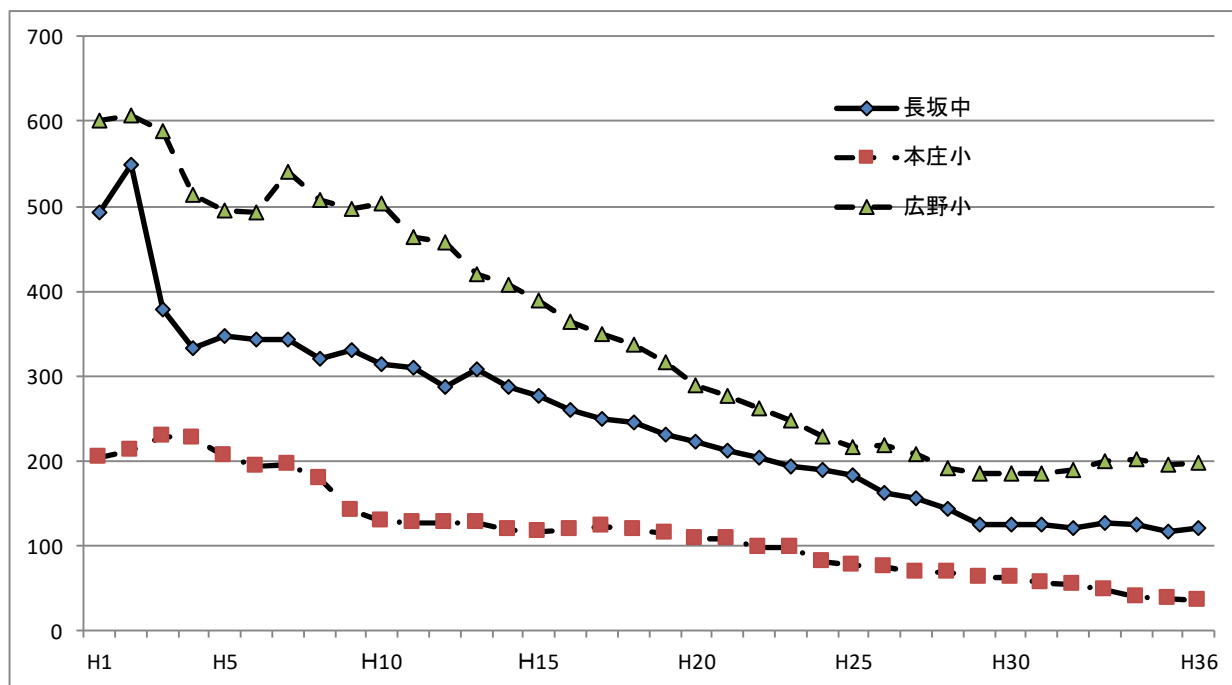
①1年生は入学式時点、1年生以外は始業式時点の児童生徒数。

②特別支援学級在籍児童生徒を含み、学級数は特別支援学級を除く学級数。

6 中学校区別児童生徒数の今後の推移について（推計）

①長坂中校区

学校名	学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度	
		学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
長坂中	1年	1	33	2	45	2	42	1	40	2	42	1	35	2	43
	2年	2	46	1	33	2	45	2	42	1	40	2	42	1	35
	3年	2	46	2	46	1	33	2	45	2	42	1	40	2	42
	合計	5	125	5	124	5	120	5	127	5	124	4	117	5	120
本庄小	1年	1	11	1	5	1	8	1	5	1	4	1	5	1	9
	2年	1	7	1	11	1	5	1	8	1	5	1	4	1	5
	3年	1	12	1	7	1	11	1	5	1	8	1	5	1	4
	4年	1	12	1	12	1	7	1	11	1	5	1	8	1	5
	5年	1	10	1	12	1	12	1	7	1	11	1	5	1	8
	6年	1	10	1	10	1	12	1	12	1	7	1	11	1	5
	合計	6	62	6	57	6	55	5	48	5	40	4	38	4	36
広野小	1年	1	32	1	35	2	37	2	37	1	32	1	23	1	34
	2年	1	28	1	32	1	35	2	37	2	37	1	32	1	23
	3年	1	30	1	28	1	32	1	35	2	37	2	37	1	32
	4年	1	28	1	30	1	28	1	32	1	35	2	37	2	37
	5年	1	32	1	28	1	30	1	28	1	32	1	35	1	37
	6年	1	35	1	32	1	28	1	30	1	28	1	32	1	35
	合計	6	185	6	185	7	190	8	199	8	201	8	196	7	198



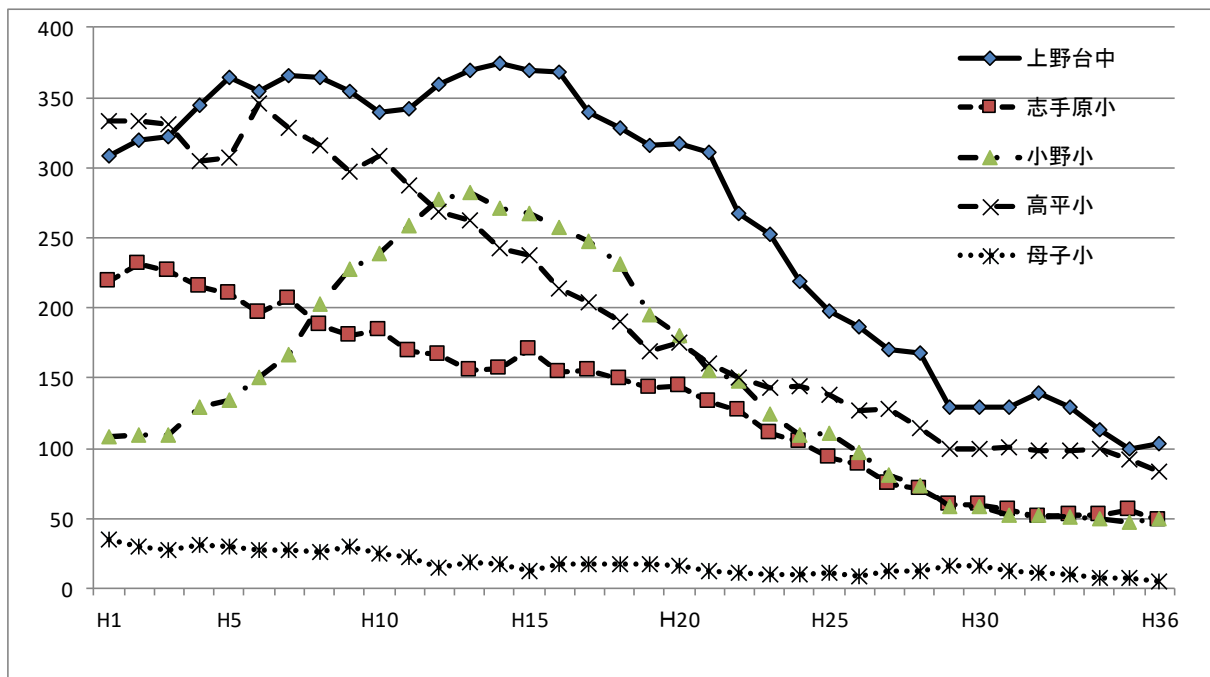
【備考】

・平成30年4月現在。各学校に在籍する児童生徒が、転出・転入することなく進級し、また、その校区に現在住んでいる未就学児がそのまま校区の学校に就学すると想定した時の児童生徒数の推計値を示しています。

・私立中学校への進学等については考慮していません。（学級数は特別支援学級を除く、人数は、特別支援学級在籍児童生徒を含む。）以降②上野台中学校区～⑧ゆりのき台中学校区も同様です。

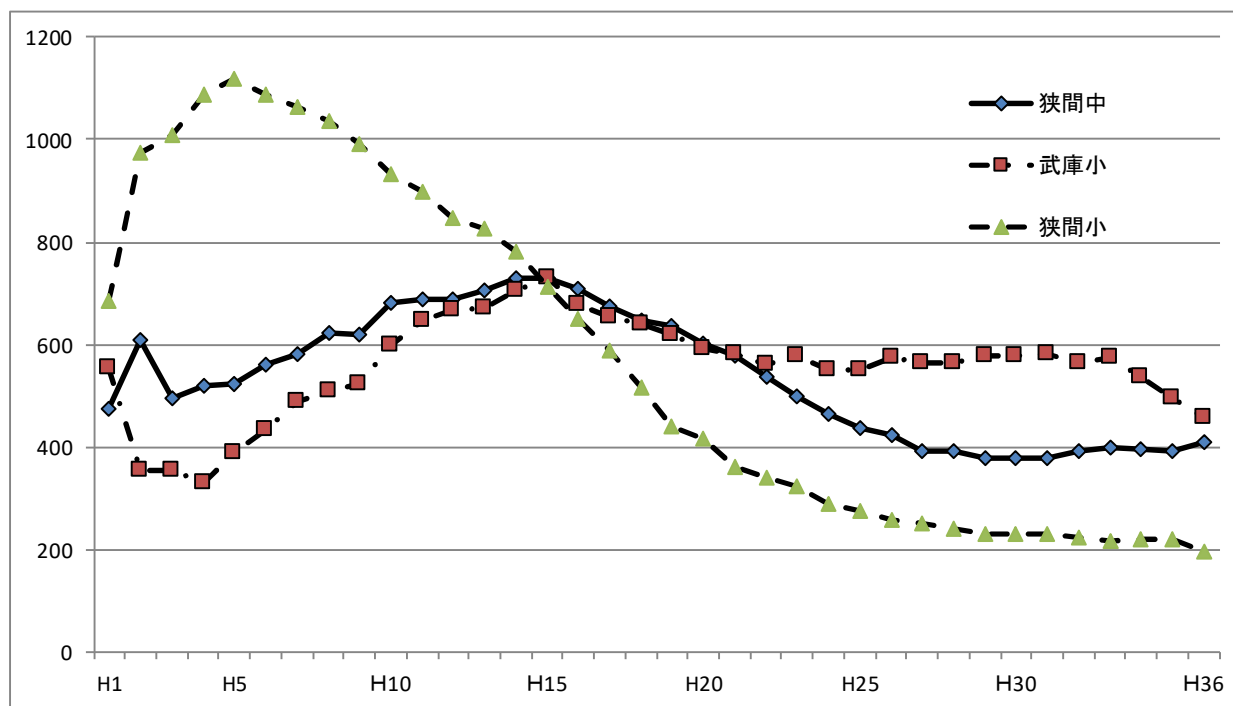
②上野台中校区

学校名	学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度	
		学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
上野台中	1年	2	46	2	44	2	50	1	36	1	27	1	37	1	39
	2年	1	39	2	46	2	44	2	50	1	36	1	27	1	37
	3年	2	45	1	39	2	46	2	44	2	50	1	36	1	27
	合計	5	130	5	129	6	140	5	130	4	113	3	100	3	103
志手原小	1年	1	13	1	8	1	10	1	8	1	9	1	8	1	5
	2年	1	4	1	13	1	8	1	10	1	8	1	9	1	8
	3年	1	9	1	4	1	13	1	8	1	10	1	8	1	9
	4年	1	7	1	9	1	4	1	13	1	8	1	10	1	8
	5年	1	15	1	7	1	9	1	4	1	13	1	8	1	10
	6年	1	12	1	15	1	7	1	9	1	4	1	13	1	8
	合計	5	60	5	56	5	51	5	52	6	52	6	56	6	48
小野小	1年	1	10	1	8	1	13	1	4	1	6	1	6	1	13
	2年	1	9	1	10	1	8	1	13	1	4	1	6	1	6
	3年	1	7	1	9	1	10	1	8	1	13	1	4	1	6
	4年	1	5	1	7	1	9	1	10	1	8	1	13	1	4
	5年	1	13	1	5	1	7	1	9	1	10	1	8	1	13
	6年	1	14	1	13	1	5	1	7	1	9	1	10	1	8
	合計	5	58	5	52	5	52	6	51	6	50	5	47	5	50
高平小	1年	1	13	1	15	1	18	1	21	1	11	1	14	1	5
	2年	1	22	1	13	1	15	1	18	1	21	1	11	1	14
	3年	1	9	1	22	1	13	1	15	1	18	1	21	1	11
	4年	1	21	1	9	1	22	1	13	1	15	1	18	1	21
	5年	1	21	1	21	1	9	1	22	1	13	1	15	1	18
	6年	1	13	1	21	1	21	1	9	1	22	1	13	1	15
	合計	6	99	6	101	6	98	6	98	6	100	6	92	6	84
母子小	1年	1	3	1	1	1	0	1	2	1	0	1	2	1	0
	2年	1	2	1	3	1	1	1	0	1	2	1	0	1	2
	3年	1	2	1	2	1	3	1	1	1	0	1	2	1	0
	4年	1	3	1	2	1	2	1	3	1	1	1	0	1	2
	5年	1	1	1	3	1	2	1	2	1	3	1	1	1	0
	6年	1	5	1	1	1	3	1	2	1	2	1	3	1	1
	合計	3	16	3	12	3	11	3	10	3	8	3	8	3	5



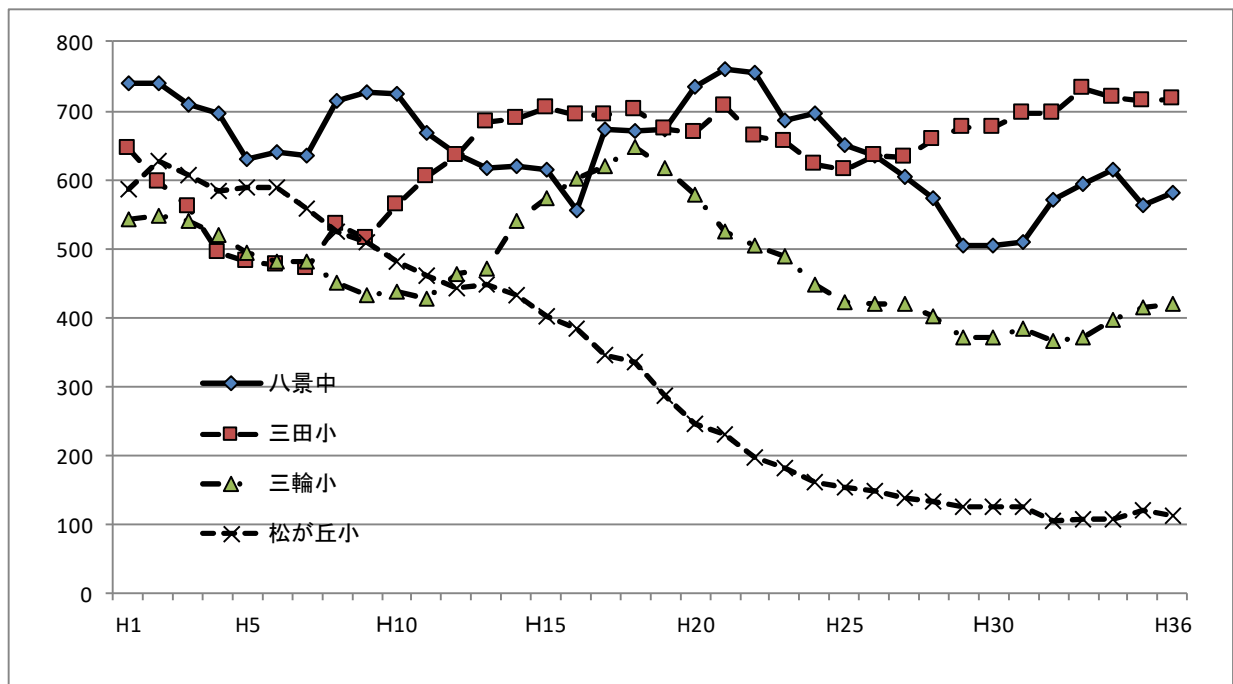
③狭間中校区

学校名	学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度	
		学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
狭間中	1年	3	113	4	138	4	141	3	120	4	136	4	138	4	134
	2年	4	129	3	113	4	138	4	141	3	120	4	136	4	138
	3年	4	138	4	129	3	113	4	138	4	141	3	120	4	136
	合計	11	380	11	380	11	392	11	399	11	397	11	394	12	408
武庫小	1年	3	91	3	103	3	80	3	89	2	64	2	68	2	53
	2年	4	110	3	91	3	103	3	80	3	89	2	64	2	68
	3年	3	101	4	110	3	91	3	103	3	80	3	89	2	64
	4年	3	81	3	101	4	110	3	91	3	103	3	80	3	89
	5年	3	95	3	81	3	101	3	110	3	91	3	103	2	80
	6年	3	99	3	95	3	81	3	101	3	110	3	91	3	103
	合計	19	577	19	581	19	566	18	574	17	537	16	495	14	457
狭間小	1年	2	43	2	38	2	40	1	32	2	38	1	31	1	17
	2年	1	28	2	43	2	38	2	40	1	32	2	38	1	31
	3年	1	35	1	28	2	43	2	38	2	40	1	32	2	38
	4年	2	39	1	35	1	28	2	43	2	38	2	40	1	32
	5年	2	46	1	39	1	35	1	28	2	43	1	38	1	40
	6年	1	39	2	46	1	39	1	35	1	28	2	43	1	38
	合計	9	230	9	229	9	223	9	216	10	219	9	222	7	196



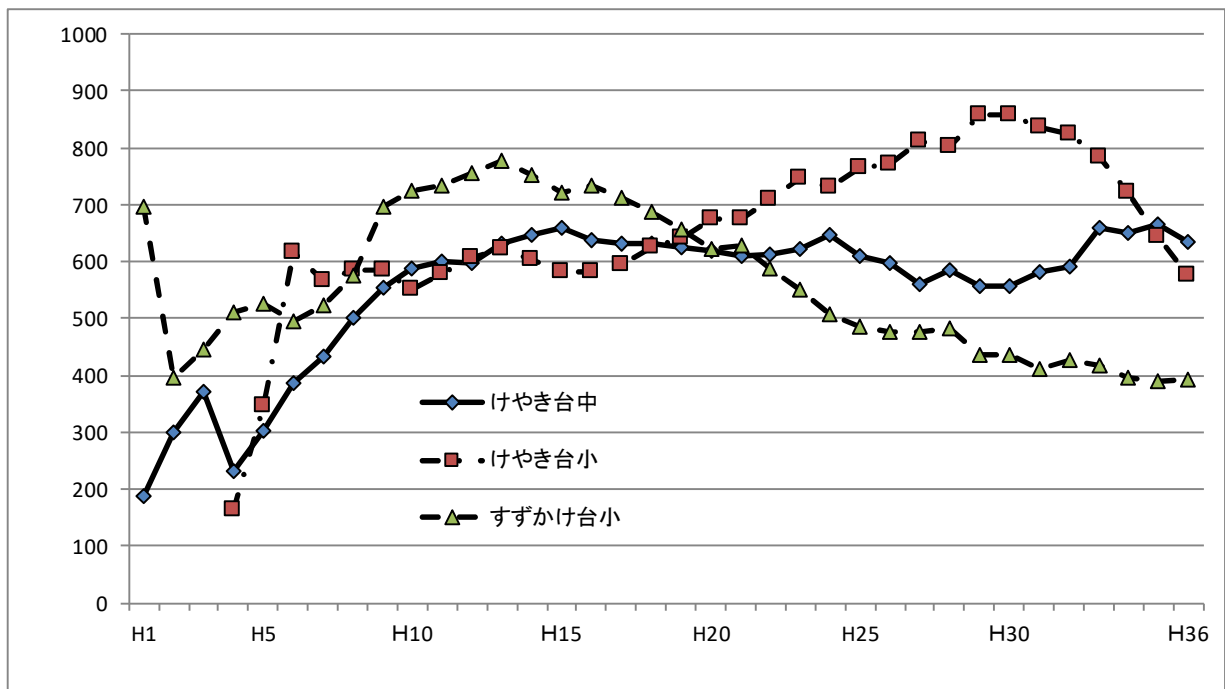
④八景中校区

学校名	学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度	
		学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
八景中	1年	4	160	5	173	5	237	5	183	5	195	5	186	6	201
	2年	5	177	4	160	5	173	5	237	5	183	5	195	5	186
	3年	5	168	5	177	4	160	5	173	5	237	5	183	5	195
	合計	14	505	14	510	14	570	15	593	15	615	15	564	16	582
三田小	1年	4	116	4	120	4	120	4	138	4	110	4	111	4	118
	2年	4	114	4	116	4	120	4	120	4	138	4	110	4	111
	3年	4	125	4	114	4	116	4	120	4	120	4	138	4	110
	4年	3	101	4	125	4	114	4	116	4	120	4	120	4	138
	5年	3	121	3	101	4	125	3	114	3	116	3	120	4	120
	6年	3	99	3	121	3	101	4	125	3	114	3	116	3	120
	合計	21	676	22	697	23	696	23	733	22	718	22	715	23	717
三輪小	1年	2	62	2	67	2	63	2	65	3	83	3	74	2	68
	2年	2	58	2	62	2	67	2	63	2	65	3	83	3	74
	3年	2	56	2	58	2	62	2	67	2	63	2	65	3	83
	4年	2	61	2	56	2	58	2	62	2	67	2	63	2	65
	5年	2	79	2	61	2	56	2	58	2	62	2	67	2	63
	6年	2	56	2	79	2	61	2	56	2	58	2	62	2	67
	合計	12	372	12	383	12	367	12	371	13	398	14	414	14	420
松が丘小	1年	1	23	1	17	1	17	1	22	1	15	1	27	1	16
	2年	1	14	1	23	1	17	1	17	1	22	1	15	1	27
	3年	1	14	1	14	1	23	1	17	1	17	1	22	1	15
	4年	1	21	1	14	1	14	1	23	1	17	1	17	1	22
	5年	1	37	1	21	1	14	1	14	1	23	1	17	1	17
	6年	1	18	1	37	1	21	1	14	1	14	1	23	1	17
	合計	6	127	6	126	6	106	6	107	6	108	6	121	6	114



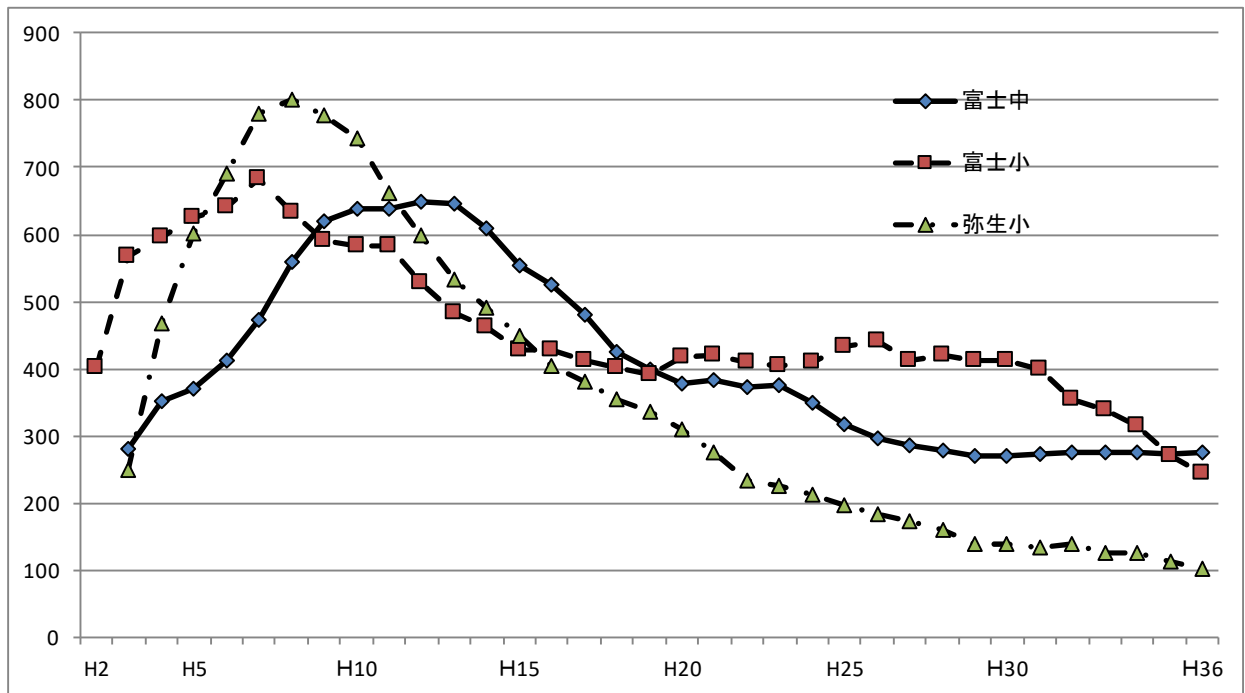
⑤けやき台中校区

学校名	学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度	
		学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
けやき台中	1年	4	157	6	229	6	205	6	226	6	218	6	220	5	196
	2年	5	197	4	157	6	229	6	205	6	226	6	218	6	220
	3年	6	202	5	197	4	157	6	229	6	205	6	226	6	218
	合計	15	556	15	583	16	591	18	660	18	649	18	664	17	634
けやき台小	1年	4	137	4	127	4	124	3	102	3	80	3	74	2	67
	2年	5	151	4	137	4	127	4	124	3	102	3	80	3	74
	3年	5	143	5	151	4	137	4	127	4	124	3	102	3	80
	4年	4	142	5	143	5	151	4	137	4	127	4	124	3	102
	5年	4	136	4	142	4	143	4	151	4	137	4	127	4	124
	6年	4	150	4	136	4	142	4	143	4	151	4	137	4	127
	合計	26	859	26	836	25	824	23	784	22	721	21	644	19	574
すずかけ台小	1年	2	59	2	55	3	84	3	74	2	56	2	60	2	62
	2年	2	69	2	59	2	55	3	84	3	74	2	56	2	60
	3年	3	75	2	69	2	59	2	55	3	84	3	74	2	56
	4年	3	84	3	75	2	69	2	59	2	55	3	84	3	74
	5年	2	69	3	84	2	75	2	69	2	59	2	55	3	84
	6年	2	79	2	69	3	84	2	75	2	69	2	59	2	55
	合計	14	435	14	411	14	426	14	416	14	397	14	388	14	391



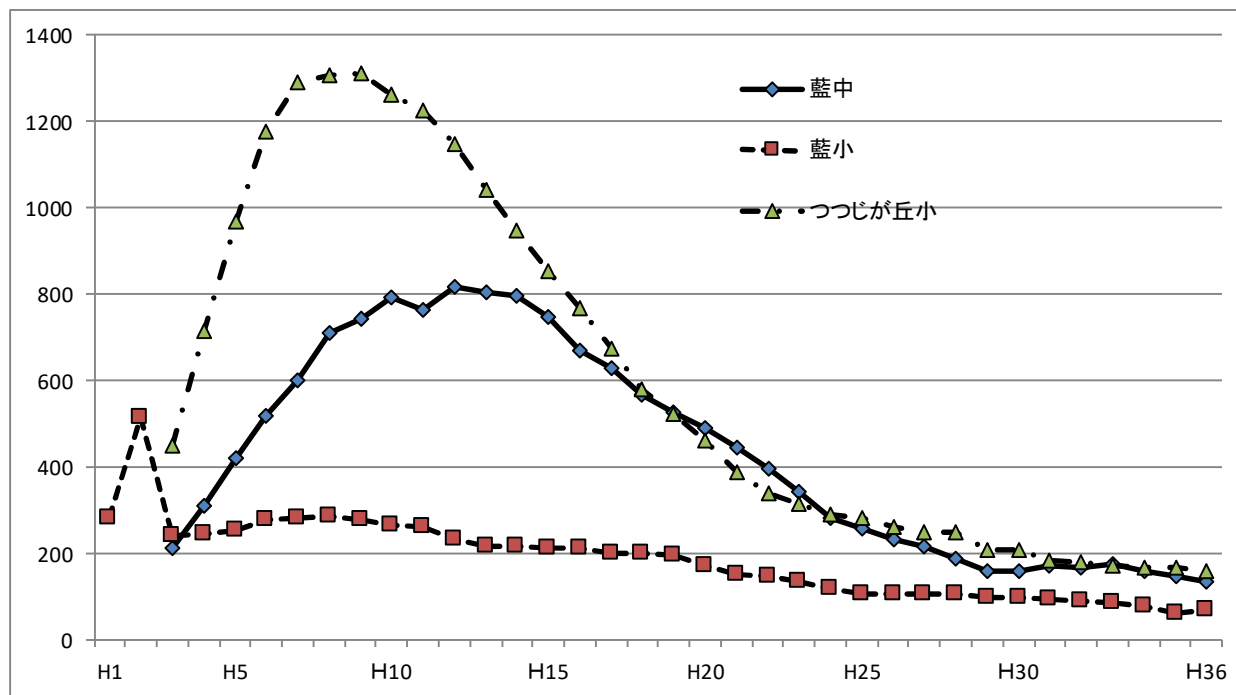
⑥富士中校区

学校名	学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度	
		学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
富士中	1年	2	82	3	89	3	106	3	82	3	87	3	103	3	85
	2年	3	102	2	82	3	89	3	106	3	82	3	87	3	103
	3年	3	86	3	102	2	82	3	89	3	106	3	82	3	87
	合計	8	270	8	273	8	277	9	277	9	275	9	272	9	275
富士小	1年	2	60	2	55	2	41	2	42	2	42	1	30	1	34
	2年	3	76	2	60	2	55	2	41	2	42	2	42	1	30
	3年	2	66	3	76	2	60	2	55	2	41	2	42	2	42
	4年	2	57	2	66	3	76	2	60	2	55	2	41	2	42
	5年	2	85	2	57	2	66	2	76	2	60	2	55	2	41
	6年	2	69	2	85	2	57	2	66	2	76	2	60	2	55
	合計	13	413	13	399	13	355	12	340	12	316	11	270	10	244
弥生小	1年	1	25	1	16	1	24	1	13	1	22	1	13	1	14
	2年	1	27	1	25	1	16	1	24	1	13	1	22	1	13
	3年	1	21	1	27	1	25	1	16	1	24	1	13	1	22
	4年	1	25	1	21	1	27	1	25	1	16	1	24	1	13
	5年	1	21	1	25	1	21	1	27	1	25	1	16	1	24
	6年	1	20	1	21	1	25	1	21	1	27	1	25	1	16
	合計	6	139	6	135	6	138	6	126	6	127	6	113	6	102



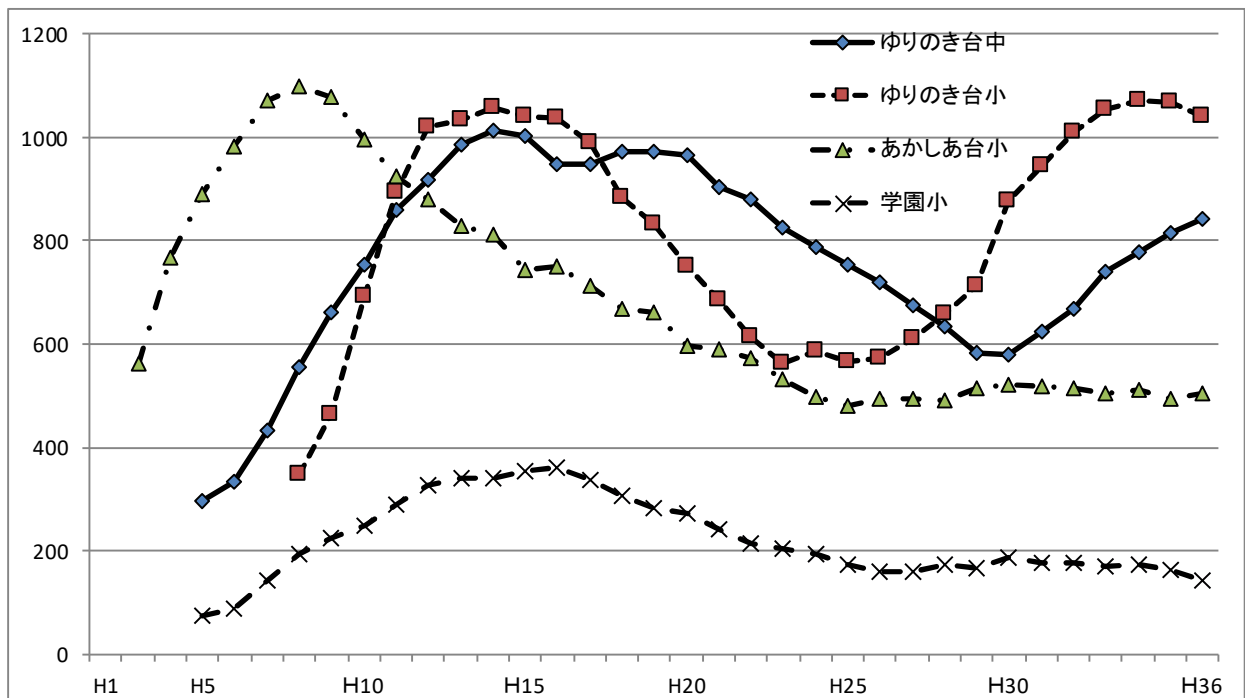
⑦ 藍中校区

学校名	学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度	
		学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
藍中	1年	2	49	2	64	2	56	2	50	2	55	2	42	2	39
	2年	2	58	2	49	2	64	2	56	2	50	2	55	2	42
	3年	2	52	2	58	2	49	2	64	2	56	2	50	2	55
	合計	6	159	6	171	6	169	6	170	6	161	6	147	6	136
藍小	1年	1	14	1	15	1	11	1	11	1	8	1	14	1	4
	2年	1	16	1	14	1	15	1	11	1	11	1	8	1	14
	3年	1	18	1	16	1	14	1	15	1	11	1	11	1	8
	4年	1	16	1	18	1	16	1	14	1	15	1	11	1	11
	5年	1	18	1	16	1	18	1	16	1	14	1	15	1	11
	6年	1	17	1	18	1	16	1	18	1	16	1	14	1	15
	合計	6	99	6	97	6	90	6	85	6	75	6	73	6	63
つつじが丘小	1年	1	25	1	30	1	24	2	38	1	28	1	21	1	14
	2年	1	26	1	25	1	30	1	24	2	38	1	28	1	21
	3年	2	37	1	26	1	25	1	30	1	24	2	38	1	28
	4年	1	34	2	37	1	26	1	25	1	30	1	24	2	38
	5年	1	38	1	34	1	37	1	26	1	25	1	30	1	24
	6年	2	47	1	38	1	34	1	37	1	26	1	25	1	30
	合計	8	207	7	190	6	176	7	180	7	171	7	166	7	155



⑧ゆりのき台中校区

学校名	学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度	
		学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
ゆりのき 台中	1年	5	202	6	230	6	236	7	273	7	269	7	272	8	303
	2年	5	191	5	202	6	230	6	236	7	273	7	269	7	272
	3年	5	186	5	191	5	202	6	230	6	236	7	273	7	269
	合計	15	579	16	623	17	668	19	739	20	778	21	814	22	844
ゆりのき 台小	1年	6	186	5	172	6	192	6	189	6	176	5	152	5	160
	2年	5	156	6	186	5	172	6	192	6	189	6	176	5	152
	3年	5	160	5	156	6	186	5	172	6	192	6	189	6	176
	4年	4	143	5	160	5	156	6	186	5	172	6	192	6	189
	5年	4	128	4	143	4	160	4	156	5	186	5	172	5	192
	6年	3	104	4	128	4	143	4	160	4	156	5	186	5	172
	合計	27	877	29	945	30	1009	31	1055	32	1071	33	1067	32	1041
あかしあ 台小	1年	3	78	3	86	3	82	3	86	3	92	2	69	3	91
	2年	3	86	3	78	3	86	3	82	3	86	3	92	2	69
	3年	3	87	3	86	3	78	3	86	3	82	3	86	3	92
	4年	3	96	3	87	3	86	3	78	3	86	3	82	3	86
	5年	3	85	3	96	3	87	3	86	2	78	3	86	3	82
	6年	3	88	3	85	3	96	3	87	3	86	2	78	3	86
	合計	18	520	18	518	18	515	18	505	17	510	16	493	17	506
学園小	1年	2	39	1	30	1	22	1	25	1	27	1	21	1	16
	2年	1	30	2	39	1	30	1	22	1	25	1	27	1	21
	3年	1	22	1	30	2	39	1	30	1	22	1	25	1	27
	4年	1	34	1	22	1	30	2	39	1	30	1	22	1	25
	5年	1	23	1	34	1	22	1	30	1	39	1	30	1	22
	6年	1	38	1	23	1	34	1	22	1	30	1	39	1	30
	合計	7	186	7	178	7	177	7	168	6	173	6	164	6	141



7 小規模校・大規模校のメリット・デメリット

(1) 小規模校

メリット	デメリット
<p>①1人1人の状況に合わせた、きめ細やかな指導がおこないやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況や学習の定着度を的確に把握できる。 ・個別指導や補充学習時間の確保がしやすい。 <p>②1人1人が活躍できる機会が多くなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の機会が多くなる。 <p>③異年齢交流が組みやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習や校外活動等 <p>④施設や備品を余裕を持って使える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場や体育館、特別教室、ICT機器等 <p>⑤保護者や地域との連携が取りやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土学習、コミュニティ・スクール等 	<p>①クラス替えが全部または一部の学年でできないため、児童生徒の人間関係や相互評価が固定化しやすい。</p> <p>②お互いに切磋琢磨する教育活動、社会性やコミュニケーション能力を養う教育活動がしにくい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班活動やグループ分けに制約が生まれる。 ・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏等の集団学習に制約が生まれる。 ・運動会・文化祭等の集団活動・行事の教育効果が下がる可能性が高い。 <p>③中学校において部活動の種類が限定されたり、免許外指導の教科が生じる等の課題がある。</p> <p>④バランスのとれた教職員配置やティーム・ティーチング、専科指導等の多様な指導方法の工夫が困難となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験年数、専門性、男女比等のバランス等 <p>⑤教職員1人1人の校務負担や行事に関わる負担が重くなり、研修や会議の時間が十分とりにくくなる。</p>

(2) 大規模校

メリット	デメリット
<p>①児童生徒相互のふれあい等の機会が多く、社会性や協調性が育成しやすい。</p> <p>②集団の中で切磋琢磨する機会が多くなる。</p> <p>③運動会等の学校行事が活発になりやすい。</p> <p>④教職員数が多く、多くの先生と接する機会に恵まれる。</p> <p>⑤調和のとれた校務分掌が確立でき、教職員1人1人の負担が緩和される。</p>	<p>①児童生徒1人1人が主体的に活躍する場や機会が少なくなる場合がある。</p> <p>②異学年交流の機会が設定しにくくなる。</p> <p>③同学年でもお互いの顔と名前を知らない等、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合がある。</p> <p>④25学級を超えるような規模になった場合、児童生徒1人当たりの校舎や運動場面積等が相対的に狭くなり、学校運営上の難しさがある。</p> <p>⑤教職員が十分な共通理解を図ったりする上で困難が生じる場合がある。</p>

8 三田市の教育に関するアンケート調査結果の概要（平成 27 年度実施）

本調査は、三田市の教育の振興に関して基本的な事項を定める「第 2 期三田市教育振興基本計画（計画期間：平成 29 年度～平成 33 年度の 5 年間）」を策定するにあたり、今後、重点をおくべき施策の把握を目的に、市民及び教職員にアンケート調査を実施したものであり、下記結果はその抜粋である。

- (1) 調査期間 平成 27 年 11 月 4 日（水）～11 月 19 日（木）
- (2) 調査対象者 ・ 市内に在住する 18 歳以下の子どもをもつ世帯・保護者
・ 市立幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の教職員
- (3) 対象数 ・ 市民 2,000 人 ・ 教職員 631 人
- (4) 回収状況

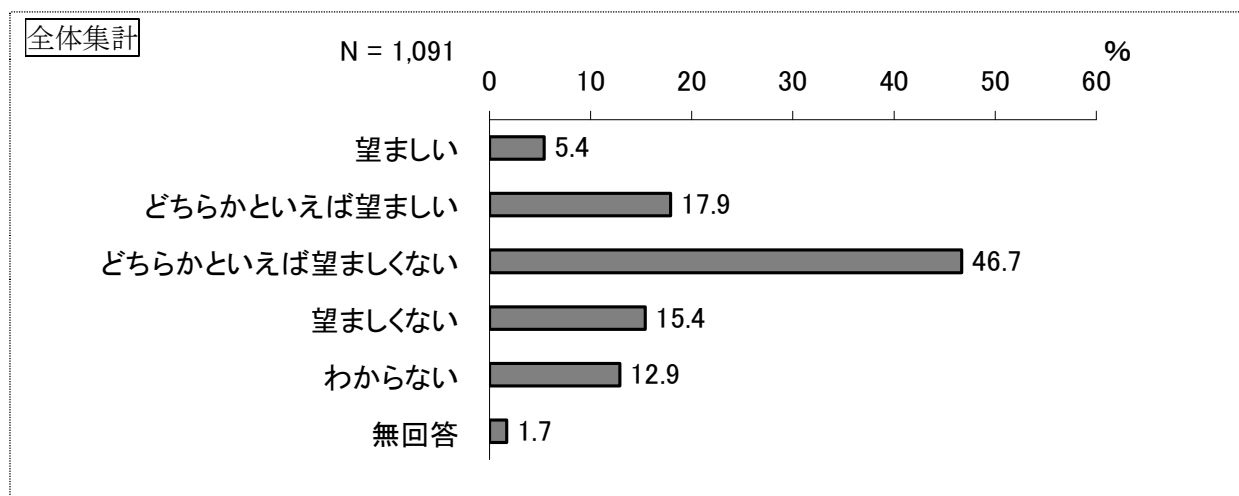
	配布数	回収数	回収率 (%)
市民アンケート調査	2,000	1,091	54.55%
教職員アンケート調査	631	628	99.52%

- (5) 調査結果【抜粋】（詳細は第 3 回審議会資料 1 - 2 参照）

①「学校・幼稚園の小規模化に対する市民意識」

問 18 少子化に伴い、市立の幼稚園及び小中学校の子どもの数が減少しており、混合学級の幼稚園（4 歳児と 5 歳児が 1 クラス）、1 学年 1 クラスの小中学校があり、今後、小規模な幼稚園や小中学校が増加していくことが予想されます。市立の幼稚園及び小中学校が小規模化していくことについてあなたはどのように思いますか。（1 つに○）

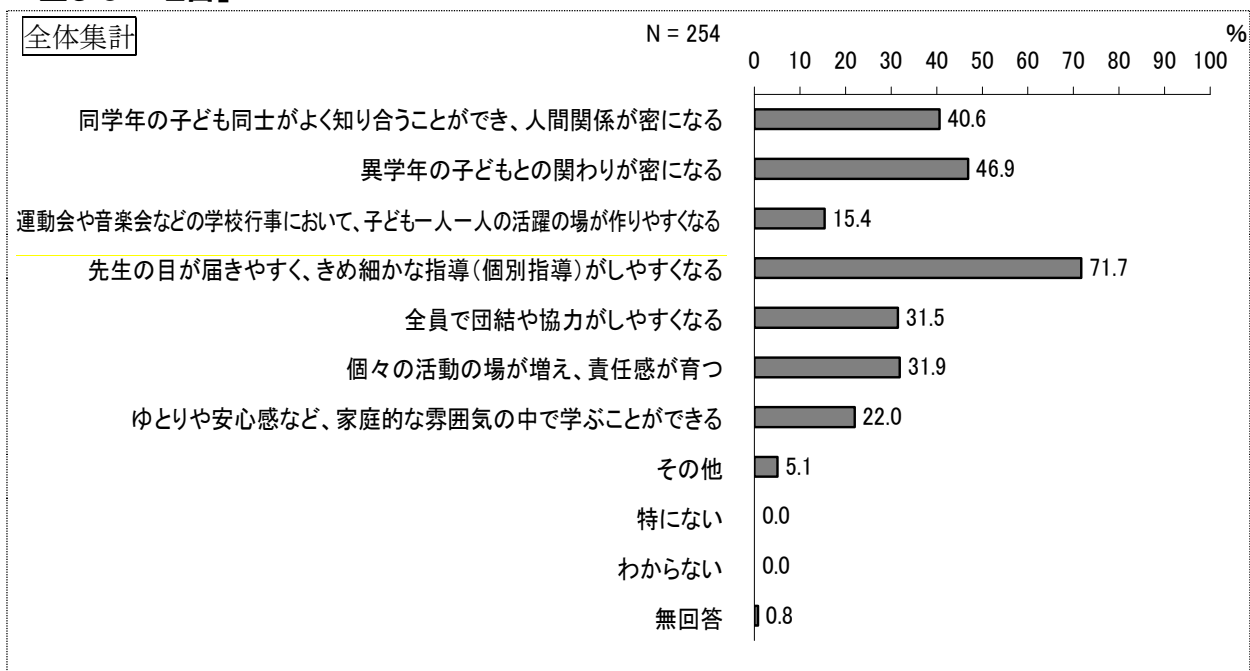
幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考えについては、「望ましい」と「どちらかといえば望ましい」をあわせた“望ましい”の割合が 23.3%、「どちらかといえば望ましくない」と「望ましくない」をあわせた“望ましくない”の割合が 62.1%となっています。



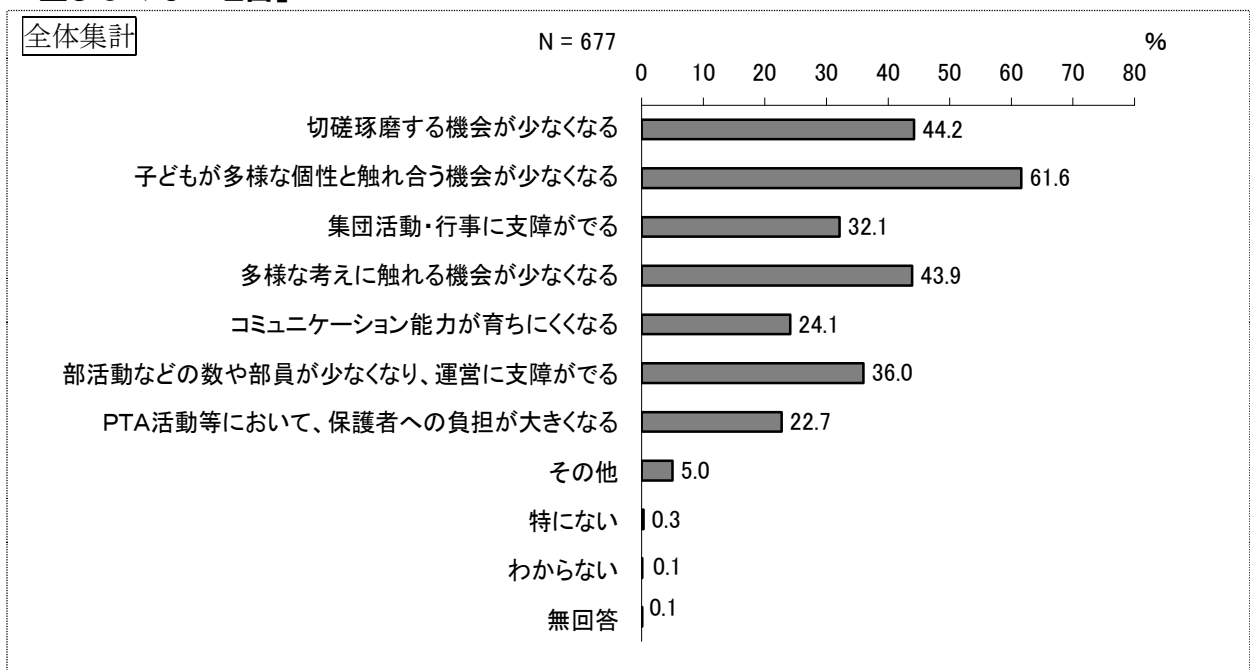
○子どもの年代別にみた、幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考え 単位：%

区分	有効回答数 (件)	望ましい	しいど いえ いば らか ま	しいど いえ いば らか ま	い望 ましく な	わから ない	無回答
就学前の子ども	327	6.4	17.7	44.0	15.6	15.3	0.9
小学生の子ども	374	4.8	19.3	47.6	14.2	12.3	1.9
中学生の子ども	180	6.7	16.1	46.1	17.2	11.1	2.8
高校生の子ども	183	2.7	17.5	49.2	16.9	11.5	2.2
その他	23	8.7	17.4	52.2	4.3	17.4	—

「望ましい理由」



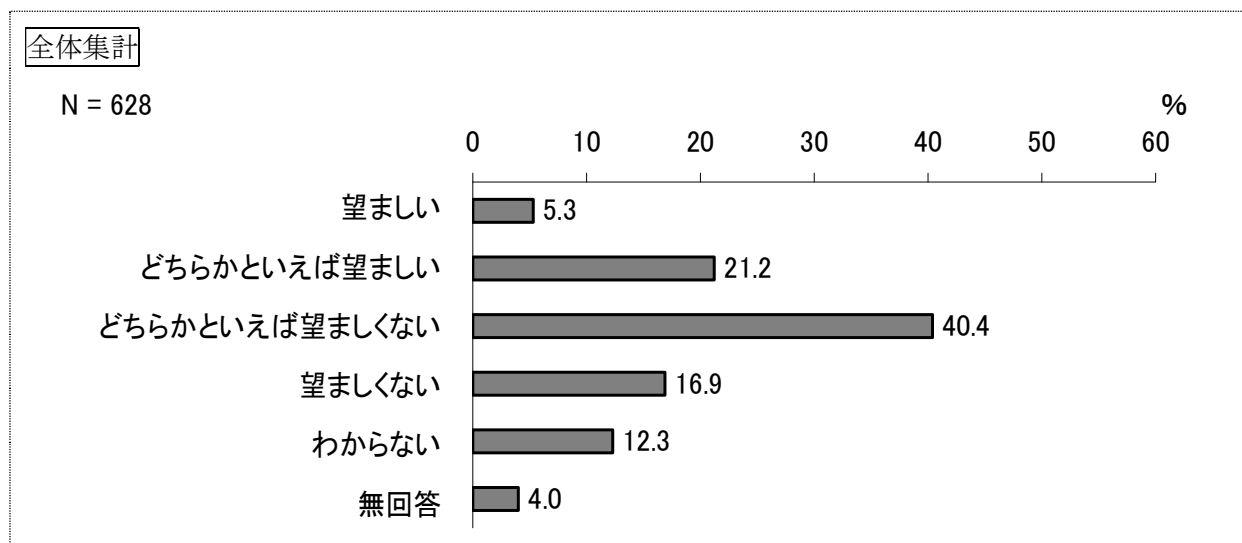
「望ましくない理由」



②「学校・幼稚園の小規模化に対する教職員意識」

問 13 少子化に伴い、市立の幼稚園及び小中学校の子ども数が減少しており、混合学級の幼稚園（4歳児と5歳児が1クラス）、1学年1クラスの小中学校があり、今後、小規模な幼稚園や小中学校が増加していくことが予想されます。市立の幼稚園及び小中学校が小規模化していくことについてあなたはどのように思いますか。（1つに○）

幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考えについては、全体集計で「望ましい」と「どちらかといえば望ましい」をあわせた“望ましい”の割合が26.5%、「どちらかといえば望ましくない」と「望ましくない」をあわせた“望ましくない”の割合が57.3%となっています。



○勤務先別にみた、幼稚園・小学校・中学校の小規模化についての考え

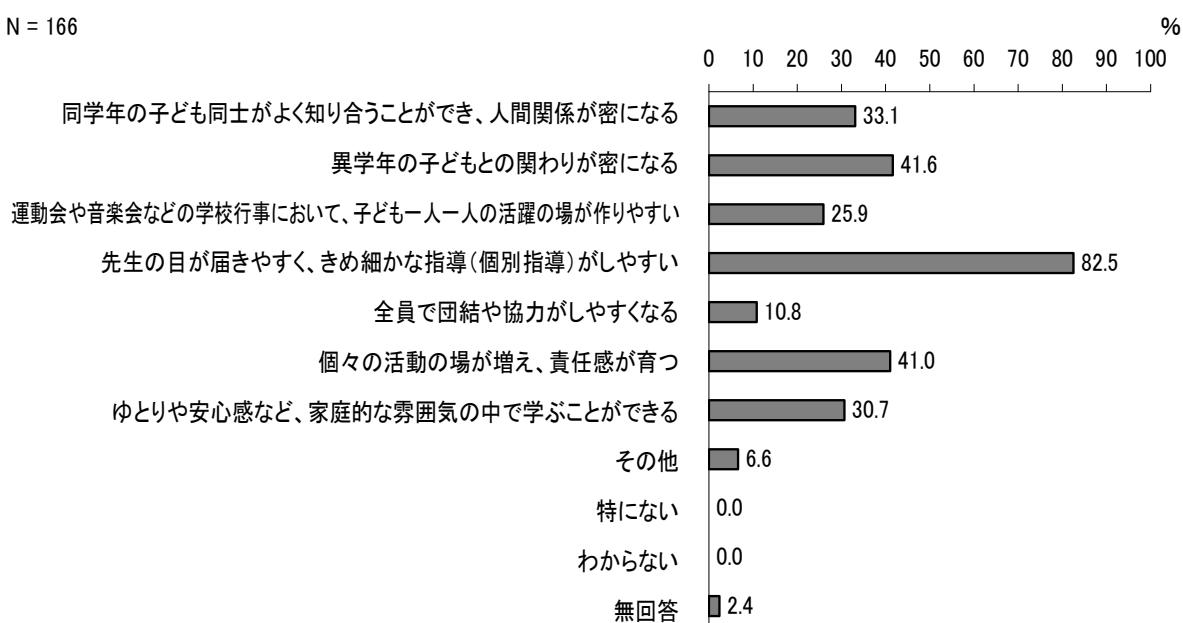
単位：%

区分	有効回答数 (件)	望ましい	どちらか い え ば 望 ま し い	い ど ち ら か と い え ば 望 ま し く な い	い 望 ま し く な い	わ か ら な い	無 回 答
幼稚園	42	—	26.2	45.2	11.9	16.7	—
小学校	374	6.1	26.5	40.9	7.8	14.2	4.5
中学校	210	4.8	11.0	39.0	34.3	8.1	2.9

「望ましい理由」

全体集計

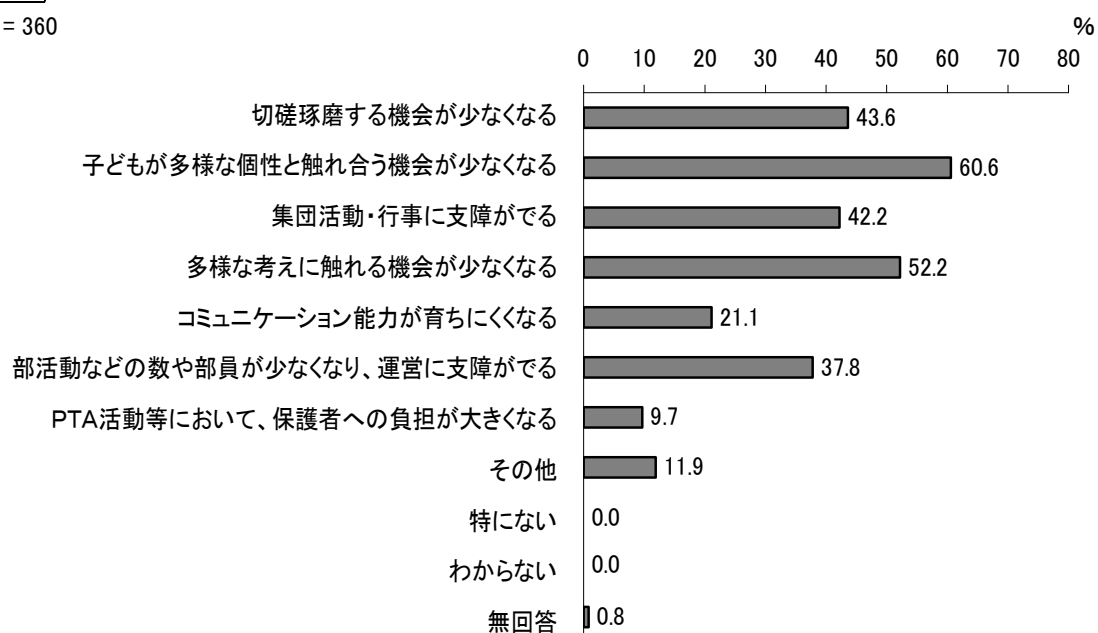
N = 166



「望ましくない理由」

全体集計

N = 360



9 小中一貫教育について

平成28年4月

小中一貫教育が制度化されます

平成27年6月、学校教育法等関係する法律が改正され、小中一貫教育が制度化されました。このリーフレットでは、小中一貫教育の制度化の内容や兵庫県教育委員会の取組を紹介いたします。

小中一貫教育って、どのような教育なのか？

小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成して、体系的な教育を目指す教育です。



（取組例）

- ・ 系統性を重視した学習カリキュラムの開発
- ・ 学習面や生活面のルール統一
- ・ 中学校教員による小学校での乗り入れ授業
- ・ 学校行事等の合同実施や相互参加
- ・ 地域行事への合同参加

系統性・連続性のある9年間の教育

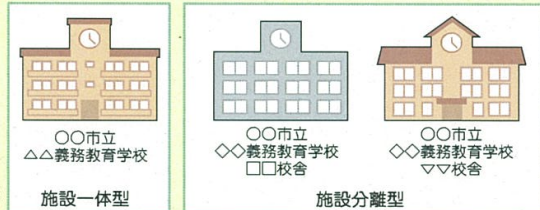


小中一貫教育を進める3つの類型

① 義務教育学校（新たな学校種）

- ・ 修業年限9年（前期課程6年・後期課程3年）
 - ・ 校長は1人（副校長〈総括担当〉1人を配置）
 - ・ 教員は原則として小・中免許を併有（当面は併有していなくても勤務可能）
 - ・ 施設の一体・分離を問わず設置可能
- ※○○学園など、義務教育学校以外の名称を用いることも可能

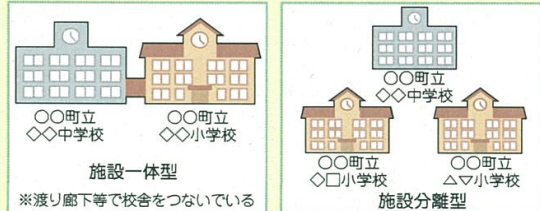
【設置イメージ】



② 併設型小学校・中学校

- ・ 小・中学校が同じ設置者
 - ・ 修業年限は小・中学校と同じ
 - ・ 校長は各学校に1人
 - ・ 教員は各学校に対応した免許を保有
 - ・ 施設の一体・分離を問わず設置可能
- ※小中一貫教育を担保するための組織運営上の措置が必要

【設置イメージ】



③ 連携型小学校・中学校

- ・ 小・中学校が複数の設置者
 - ・ 修業年限は小・中学校と同じ
 - ・ 校長は各学校に1人
 - ・ 教員は各学校に対応した免許を保有
 - ・ 施設の一体・分離を問わず設置可能
- ※小中一貫教育を担保するための組織運営上の措置が必要

【設置イメージ】

